

## 令和5年度 放課後等デイサービス事業者における自己評価表

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点等
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか。	○			活動スペースは、十分に確保されています。活動内容によっては、部屋を区切る、パーティションを利用する等、環境を整えて支援を行っています。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			法令で必要とされている職員のほか、児童指導員等の加配職員を配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか。	○			大きな段差はなく、車いすやバギーなども室内を移動できます。多目的トイレも完備しています。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			毎日のミーティングで利用児童の確認や訪通、児童の支援について話し合いを行い、情報の共有を図っています。また、月に2回会議を行い、業務改善や児童の支援についての振り返り、評価、見直しを行いより良い支援に繋げるようにしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか。	○			毎年、保護者向け評価を実施しています。保護者からの意見を真摯に受け止め、今後の業務改善に活かしていきたいと思えます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか。	○			保護者向け評価、事業所向け評価をホームページにて公表しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			○	現在は行っていません。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか。	○			定期的な法人内研修、必要と思われる外部研修には参加させていただいています。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			計画期間ごとに保護者や相談支援員と話し合いの時間を作り、再度アセスメントを取りながら、ニーズや課題を把握し、放課後等デイサービス計画を作成しています。
	10	子どもの状態を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか。	○			標準的なアセスメント票を用いて、アセスメントを取っています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			日々の活動内容や個別課題など、活動リーダーや各担当を中心に、立案、実施しています。特に、長期休暇中の活動は事前に立案し、季節に応じた創作活動や体験ができるようにしています。

	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		創作、運動、音楽、余暇活動とバランスよく子どもたちが楽しめる活動内容の工夫を行っています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。	○		放課後等デイサービス計画に基づいた支援を個々に実施し、平日・長期休暇に応じて設定して支援しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個別課題、集団活動を組み合わせた支援計画を作成しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか。	○		支援開始前にミーティングを行い、確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後は難しいですが、必要に応じてその日の状況の意見交換をしています。訪通は、業務日誌に記入し、翌日のミーティングの時間で、情報共有を行っています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援内容を記録しています。会議や毎日のミーティングで支援の検証、改善を図っています。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか。	○		定期的に保護者と児童発達支援管理責任者が話し合いを行い、放課後等デイサービス記録の見直しを行っています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		子どものニーズや特徴に合わせて複数の活動内容を組み合わせを行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	○		送迎時の対応等情報共有を図っています。学校のマチコミ登録、年間予定表等をいただき、下校時刻や行事内容等を把握しています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか。		○	現在、医療的ケアの必要な児童の受け入れはしていません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		児童発達支援事業所、相談支援専門員との連携も含め、情報共有を行いました。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	今年度は、高校卒業の児童がいませんでした。

	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか。			○	今年度は研修に参加する機会がありませんでした。今後は、研修に参加させていただきたいと思います。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。			○	交流の機会はありませんでした。様々な事業所との交流の機会が持てるよう活動内容を考えていきたいと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○			管理者が自立支援協議会の専門部会に入っています。教育連携勉強会へ参加させていただきました。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			送迎時に様子を伝えるとともに、家庭での様子を聞き相談に応じています。また、連絡ノートに支援の様子や活動の様子等を記入し、保護者からも家庭での様子等、情報を得ています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っているか。		○		ペアレントトレーニング等の講座の実施はしていませんが、送迎時など個別の対応で相談や助言等を行っています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			契約時や個別支援の話し合いの時に説明しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	○			定期的に個別の話し合いを行っています。また、日頃から相談に応じるようにしています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか。	○			6月にびび開所以来、初めての保護者会を開催しました。参加の難しかった保護者の方もいたため、定期的な開催を計画していきたいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情受付相談窓口を設置しています。児童発達支援管理責任者が苦情受付担当者になっています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			法人として広報誌やホームページに情報を発信しています。びびだよりの発行、ホームページに保護者のみ閲覧可能な写真館を作成し、活動の様子を伝えています。
	35	個人情報に十分注意しているか。	○			個人情報の書面は厳重に保管しています。広報誌やホームページに掲載する場合は、必ず保護者の了承を得てからおこないます。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			視覚的支援など児童に応じた配慮をしています。また、連絡ノートや送迎時に情報伝達をおこない、必要に応じて、電話にてやりとりをおこなっています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今年度、法人で真夏の夜のつどいを開催しました。感染症予防のため、施設と事業所のみで行いました。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか。	○		それぞれマニュアルを作成し、法人内研修などで訓練を実施し、職員に周知を図っています。保護者には必要に応じてマニュアルの閲覧ができるようにしています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に避難訓練を実施し、地震や火災を想定した訓練をしています。総合避難訓練は日中に行っているため、児童の参加は難しいですが、職員が参加し、消火訓練等をおこなっています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人で、虐待防止委員会を設置し、虐待防止についての研修機会を確保しています。弁護士や児童発達支援管理責任者による人権擁護研修や意思決定支援、虐待についての研修をおこない、自己の支援の振り返りや再認識を図り、虐待防止に努めています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		安全を確保するためのヘッドギアの着用について記載しています。身体拘束に関して組織的に決定したうえで、事前に説明、了承を得て、放課後等デイサービス計画にも記載しています。法人の身体拘束廃止委員会での検討も行っています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。			○	現在、食物アレルギーのある児童はいません。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか。		○		法人の事故防止安産対策委員会で定期的にヒヤリハット事例をまとめています。事業所ごとに対策を講じています。